

様式(9)

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保</p> <p>第 1 2 号</p> <p>乙 保</p>	氏 名	松 崎 和 代
審査委員	<p>主 査 谷岡 哲也</p> <p>副 査 森 健治</p> <p>副 査 岩佐 幸恵</p>		

題 目

Associations of menopausal symptoms with job-related stress factors in nurses in Japan  
 (日本の看護師における更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連)

著 者

Kazuyo Matsuzaki, Toshiyuki Yasui, Hirokazu Uemura: *Maturitas* 79:77~85, 2014  
 に掲載済み

要 旨

周閉経期の女性において、仕事関連ストレスと更年期症状との関係について世界的に注目され始めている。本邦においても周閉経期を迎える女性看護師の数は徐々に増えてきており、重要な課題となってきた。

本研究の目的は、本邦の周閉経期の看護師において、更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連を明らかにすることであり、特に管理職と非管理職との間で、更年期症状と仕事関連ストレス要因の違いが存在するかどうかに関心を置いている。全国の45~60歳の1700人の看護師を対象として、GreeneのClimacteric Scaleおよび職業性ストレス簡易調査票を用いて種々の要因を解析した。その結果、管理職は憂鬱になる、急に泣きたくなると感じている割合が非管理職より高く、管理職は心理的な仕事の量的負担に関連したストレスが強い。一方、非管理職は身体的負担、仕事のコントロール、技術の活用、職場環境と働きがいに関連したストレスが強い。管理職、非管理職ともに、精神神経症状は対人関係と関係があり、管理職の精神神経症状は仕事の適性度と働きがいとも関係があることが確認できた。ストレスの多い労働環境が更年期症状の悪化と関係している可能性があり、仕事関連のストレスをできるだけ少なくすることは、更年期症状の軽減につながり、看護師が健康で働くことができるために重要であることを示唆している。

以上のことは、看護師の管理職と非管理職における更年期症状や仕事関連ストレス要因の違いに関する新しい知見であり、この情報は、職位に応じた看護師個々の健康管理を行う上において重要であり、本研究の社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。